

穏やかな日常に 思いを馳せて

つくばみらい市は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対し、抗議文の送付や「ウクライナ人道支援募金箱」を設置するなど、一日も早いウクライナの安定と平和を願ってきました。

本市には、ウクライナ国籍の武藤マリヤさん（写真右）が在住しており、何か困っていることはないか伺ったところ「ドネツクにいる母をつくばみらい市に避難させたいが、ウクライナの日本大使館が閉鎖されており、どうすればいいかわからない」という相談を受けました。これをきっかけに、市ではウクライナから無事に避難できるよう独自の支援を行い、4月20日に母娘の再会が実現しました。

今回、武藤マリヤさんと、その母でありドネツクより避難されたゴラルスカ・リュボヴィさん（写真左）が日頃の感謝を伝えるため、ご近所の友人をご自宅に招待した様子と、つくばみらい市での暮らしについて取材させていただきました。

突如轟く衝撃音

—ロシアの軍事侵攻が激化する中、リュボヴィさんが避難されるまではどのようなお気持ちでしたか？

マリヤさん 本格的に戦争が始まって、すごく心配でした。母を早く避難させたかったのですが、どうすればいいのかわからず、無力感を感じていました。でも、市の方がすぐに対応してくれて、本当に感謝しています。ありがとうございます。

—避難するまで、リュボヴィさんはどのようなお気持ちでしたか？

リュボヴィさん 銃撃戦が始まり、住んでいるマンションの近くでも爆撃がありました。突然、視界を覆うような強い光と、建物の崩れ落ちる音が街中に響き、私たちの日常が奪われました。水道は一週間に一度、二時間出るだけなので、浴槽などに水を溜めて使う生活を送っていました。いつ自分の部屋が攻撃されるのか、不安と恐怖で夜も眠れません。なので、羽田空港で娘の顔を見た時は、もう大丈夫なんだと安心して、涙が止まりませんでした。



①分からない言葉はポケトークで

毎日が楽しいです！

—つくばみらい市での暮らしはどうですか？

リュボヴィさん とても穏やかに過ごせています。最初はごみ収集車の音ですら、戦争を思い出して怖かったのですが、今は安心して眠ることができています。最近では、毎日、近所のお友達と散歩をしたり、育てているトマトやキュウリの世話をしたりしています。つくばみらい市に住んでいる皆さんのおかげで、毎日が楽しいです！

—近所の方とよく交流しているんですね。コミュニケーションはどうやって取っているんですか？

リュボヴィさん 市から借りた「ポケトーク」という翻訳機で、コミュニケーション

ションを取っています。お友達と散歩中に見かけた花を、お互いの言語では何と調べる時などに使っています。たまにポケトークの翻訳がうまくいかない事もありますが、その時はジェスチャーや表情で、お互いの言いたいことが通じ合っています。

—お友達と一緒にいった、思い出に残っているところはありますか？

リュボヴィさん お花見で行った福岡堰です。お友達がお弁当を持ってきてくれて、その時に食べた天ぷらがとても美味しかったです。すぐに作り方を教わりました。

—日本料理も作るんですね。ウクライナではどんな料理を作っていましたか？

リュボヴィさん ボルシチやピロシキをよく作っていました。ボルシチは私の大好きな料理です。ピロシキは日本でもよく作っていて、一度に

50個は作ります。今日も50個作りますよ。

マリヤさん 私はそんなに作らなくてもいいと言ったんですが、母がどうしても作りたいと言っているので（笑）。

—50個も!? そんなにたくさん作るんですね！

リュボヴィさん ウクライナでは、料理を作ったら近所の人に必ず配るので、最低でもそのくらいは作りますね。逆に、小人数分は作ったことが無いので、分量が分かりません。



②お友達と日課のお散歩 ③家庭菜園を楽しむリュボヴィさんとマリヤさん



④ピロシキはリュボヴィさんの得意料理 ⑤お友達とワイワイお料理！初めてのピロシキ作りに挑戦です ⑥今日はフルコース！

「今日はどんな料理を作るんですか？
リュボヴィさん ボルシチ、ピロシキ、
ビーツのサラダ、ビーフストロガノフ
などです。ピロシキは作るのが簡単な
ので、近所のお友達と一緒に作ります。
故郷の料理をこうして知ってもらえる
のは、とても嬉しいです。
「日本でやりたいことはありませんか？
リュボヴィさん 早く日本語を覚え
て、お友達と自分の言葉でお喋りした
いです。市の日本語教室に通っていま
すが、日本語はとても難しいです。」

特に「ぬ」と「ね」の違いが覚えにく
くて、苦労しています。
「勉強熱心なんですね！ ウクライナ
に戻ったら、何をしたいですか？
リュボヴィさん たくさんの友達に
会って、一緒にアンサンブルで歌った
りダンスを踊ったりしたいです。毎日
連絡を取り合っている孫には、大好き
なピロシキを作ってあげたいですね。
そして、ウクライナに戻っても、平和
で穏やかなつくばみらい市にまた来た
いです。」

⑦日本語を勉強するリュボヴィさん。多い日は1日
8時間も勉強するんだとか ⑧「また明日ね！」



平和を一緒に祈って 欲しい

「最後に、この記事を読んでいる方に
メッセージをお願いします。
マリヤさん 空港で母と再会した時、
母はとても疲れ切っていました。今
は笑顔が増えて本当に良かったです。
母を温かく迎えてくれている市民の皆
さん、本当にありがとうございます。
リュボヴィさん 戦争はとても悪いこ
とです。穏やかな日常があったという間
に無くなってしまふ怖さを目の当たり
にして、平和の大切さを改めて感じて
います。市民の皆さんには、ウクライ
ナの平和と一緒に祈って欲しいです。
「本日は取材にご協力いただき、あり
がとうございました！」

取材を終えて

ウクライナの状況と、つくばみらい
市での暮らしを伝えることで「何気な
い日常の大切さ」を皆さんに考えても
らうきっかけになればと思います、この特
集を企画しました。
また、お二人からは「つくばみらい
市への避難が実現したことへの感謝
を、市民の皆さんに伝えたい」という
思いがあり、実現しました。
取材を通じてお二人の笑顔に触れ、
一日一日を大切にしよう、そして、市
民の皆さんが安心して平和に暮らせる
ための街づくりに取り組んでいこう
と、思いを強くしました。
つくばみらい市は、一刻も早く、ウ
クライナに平和が訪れることを願って
います。